

化石のたまご



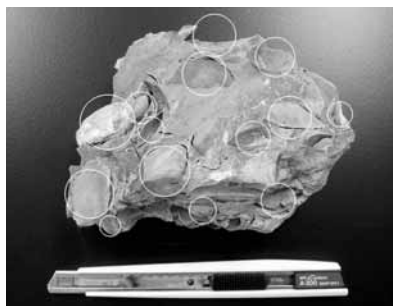
地層の中に巨大な丸い物体が。
下に見えるハンマーの長さは30cm。

厚田区望来^{もちらい}の海岸では、崖^{がけ}の地層の中に巨大な丸い物体が埋まっているのを見ることが出来ます。大きなものは直径2m。恐竜の卵の化石？ いえ、違います。これは「化石の卵」なのです。

石狩川の河口から北に5kmほど行くと、砂浜が終わり、波打ち際には高い崖が迫ってきます。崖には「望来層」と呼ばれる地層が見られます。

今から800万年前、600万年前のもので、望来でもっともよく調べられていることから、そう名付けられました。地層の中の丸い物体は、人間よりも大きいものから野球ボールくらいまで、大きさはさまざまで、中には平べったいものなどもあります。これらはいったい何なのでしょう。

地層・岩石を調べ



ノジュールの中にはたくさんの化石が入っていました(○印)。シロウリガイの仲間、深海海底で生活する二枚貝です。

る基本は、たたき割って中身を見ること。この崖はとても崩れやすく、近寄るのは非常に危険なため、すでに崩れて下に落ちていたその物体を拾い、岩石ハンマーでたたいてみました。とても硬いのですが、何とか割ってみると、中から出てきたのは、たくさん二枚貝の化石。化石が出てくる岩石、「化石の卵」です。

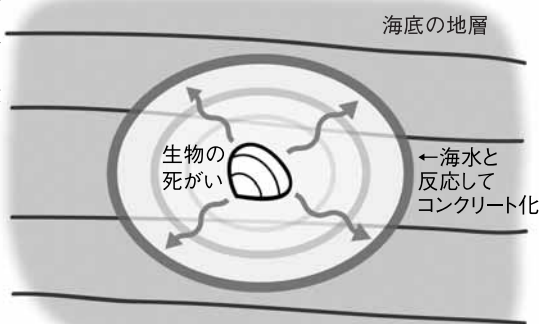
実はこれ、地質学の用語で「ノジュール(団塊)」と呼ばれ、地層が化学的に変化してコンクリートのよう非常に硬くなったものなのです。地層とは海底などに泥や砂が降り積もって、長い年月の間に固まってできたもの。泥や砂

の中に生物の死がい
が埋められると、有機物から出してくる成分と海水が反応して炭酸カルシウム(セメントのようなもの)ができ、まわりの地層を固めます。それがノジュールです。

生物の死がいノジュールを作る——。ということは、ノジュールの中には生物の死がいがあった、つまり化石が入っている可能性が高い、ということ。もちろん化石になる前に分解して無くなってしまうたり、生物に関係なくできたノジュールもあるため、例外もたくさんあります。また、大きいノジュールには大きな化石が入っているかという、そんなことはまったくないようです。

望来層のノジュールからは、深海底に生活する二枚貝、シロウリガイの化石がたくさん見つかります。800万年前のこの辺りは深い海だったことを教えてくれる大切な自然遺産が、ここにあります。

(志賀健司)



海底で生物の死がい埋められると、有機物から出てくる成分と海水が反応して炭酸カルシウム(セメントのようなもの)ができ、まわりの地層を固めます。それがノジュールです。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp